

一中の桜並木

令和8年2月18日

「教育目標」

考える人

思いやりのある人

助け合う人

成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

1年生自然教室を終えて

2月6日からミラノ・コルティナ冬季オリンピックが行われています。大会はすでに中盤を過ぎ、どの競技会場も熱い戦いで盛り上がっている様子がテレビやネットニュースなどから伝わってきます。私自身あまりスポーツは得意ではありませんが、観戦するのは大好きです。今大会からフリースタイルスキーの中に新しく「デュアルモーグル」という競技ができました。デュアルモーグルは、2人の選手が同時にスタートして、コブだらけの急な斜面を滑り、スピードと技で勝負する競技です。ジャンプの技もあり、見るだけでドキドキしますし、競技後にお互いを称え合う様子にも感動します。自然教室でスキーというスポーツを体験してきた生徒たちは、スキー選手たちの技術の高さと挑戦する勇気の凄さが、今まで以上に感じられるようになったのではないのでしょうか。

☆ ☆ ☆

2月4日（水）から6日（金）の2泊3日で、1年生自然教室を実施しました。宿舎は長野県川上村にある三鷹市川上郷自然の村、スキー実習場所は山梨県にあるサンメドウズ清里スキー場でした。

三鷹市の中学校自然教室、私が三鷹市に初任者として着任した平成21年度までは、中学2年生を対象に3泊4日で実施され、1日目はアイススケート実習、2・3日目はスキー実習、4日目は牧場などでの自然体験活動…と盛りだくさんな内容でした。その後、学習指導要領の改訂に伴い、授業時数の確保などのため2泊3日の実施となり、更に自然教室に向けた取組の時間がきちんと確保できるよう、職場体験活動などで忙しい2年生ではなく1年生での実施へと見直しが行われてきました。今年度から本校では完全に1年生での実施となりました。このスキー実習を伴う自然教室が「廃止」ではなく「学年を変えて実施」となった背景には、生徒たちがこの行事でしか学べない大切なことがある、この行事が生徒たちを大きく成長させる機会となっている、という教員たちの実感があるのだと思います。そのような思いが生徒たちにも伝わったのか、1年生ながら実行委員会を中心に、自分たちで宿泊行事を作り上げるために頑張る姿が随所で見られました。

12月から本格的に始動した実行委員会では、スローガンを「切磋琢磨～仲間と楽しく未来へ繋ぐ～」とし、修学旅行という中学校校外行事のゴールとなる活動を意識している様子が見られました。12月16日に行われた保護者説明会では、実行委員の生徒たちが3日間の行動予定や自分たちで決めたルール、スキー実習時の服装などを保護者の方に説明し、先生任せにせず頑張るんだという気合を見せてくれました。1月に入ると係会を行い、宿舎での生活を、安全で楽しく、時間に余裕をもったものにするためにはどうしたらよいかを話し合い、入念な準備を行っていました。それらの準備が実を結び、3日間、大きな怪我やトラブルなく、3日間の生活を送ることができました。

メインとなるスキー実習は、経験やスキルを考慮した21の班に分かれて実施。インストラクターさんの指示に従い、班長が声掛けをしながら、チームで取り組む姿が見られました。生まれて初めてスキーをするという生徒たちは、最初は道具の扱いや雪の上で思うように動けない自分に苦労していましたが、2日目にはすべての班がリフトに乗って滑りを楽しむことができていました。また、経験者の班も、家族ではなく学校の仲間と滑る楽しさを感じ、成長している様子でした。

多くの生徒たちにとって「あっと間の3日間」だったようですが、その中で自分自身でも変化を感じたり、次に向けての課題を見つけたりできており、大成長できた大成功の自然教室だったと言えるでしょう。もうすぐ2年生、これから一中の“軸”となって活躍してくれるのが楽しみです。

副校長 矢澤 理恵



サンメドウズ清里スキー場
(右奥には富士山が！)



実行委員や係の生徒が前に立ち
みんなに呼びかけ